

# Speculating the future of Haute Couture - designing mass-customizable garments for the sustainable future

清水快、水野大二郎、川崎和也、佐野虎太郎

## 1. 活動目的

本活動は1月に取り組んでいたオートクチュールファッションブランドYUIMA NAKAZATO及びアルゴリズムミックデザインを専門とする建築集団のNOIZ ARCHITECTSとの共同研究におけるサービスデザインからプロダクションラインの研究の中で学んだことを発表し、サステイナブルファッション及びデジタルファブリケーション前提のファッションについて議論することを目的とした。

## 2. 活動概要

### a. 基本情報

日程：2018年10月31日～11月1日

場所：London College of Fashion、イギリス

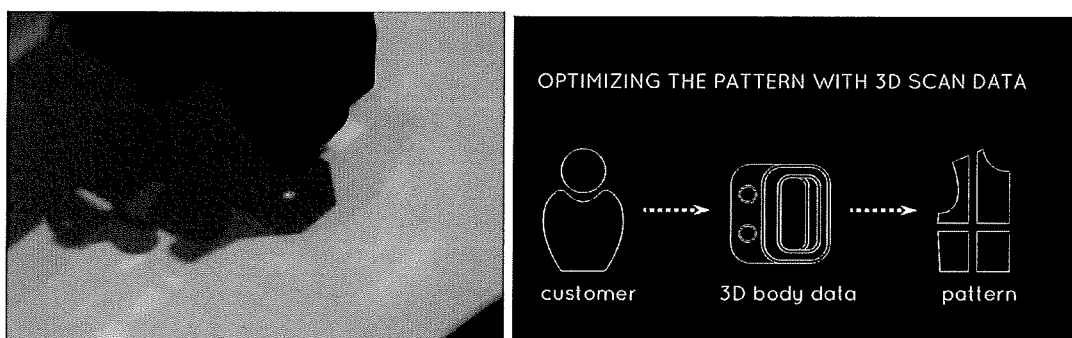
### b. Global Fashion Conference にて共同研究の口頭発表

発表では2018年1月にフランスでパリスコレクションの一環として開催されてるオートクチュールウィークにて発表したファッションブランドYUIMA NAKAZATO及びNOIZ ARCHITECTSとの共同研究について発表をした。オートクチュールブランドとして、これまでは手動でお客様の体に寸法に合わせて衣服などをデザインしてきたプロセスをデジタル化することによって、デジタルファブリケーションを利用した自動化をプロセス内に導入することが可能になった。自動化することによって、新たなデータとの関わり方、衣服をデザインするためのプロセスなど様々のこれまでと違ったサイクルを構築することができ、YUIMA NAKAZATOと共に研究することができた。当日は「製品化に当たってどのようなデザイン判断プロセスを取ったのか」「サステイナビリティをどのようにプロダクトの中で考慮することができたのか」など各国のファッションデザイナー、研究者、社会学者、ファッション業界の方から質問をいただくことができた。他の研究者の発表などをお聞きし、研究方法自体がプロトタイプなどを前提としている

Research through designと違い、理論や観察プロセスに伴う考察が多く、違った視点から研究について質問などをいただいた。全体の研究発表を通して、よりファッションデザインの分野では新たな実践的な研究のメソッドロジーの確立の必要性を提案することができた。学会期間中には各国の教育者や活動している研究者の研究について話すことができ、国外のネットワークを構築することができた。

### C. YUIMA NAKAZATOとの共同研究についての映像の発表

より共同研究内容をわかりやすく発表するために、研究内容を映像で説明し、ユーザーが店にて注文するところから製品を受け取るまでのプロセスを可視化した。ファッションデザインの研究としてこのようなデジタルファブリケーションを利用したハイファッションのデザインプロセスを一つのテーマとして扱うものが少ないために、なるべく各ステップについて説明することが必要となった。私たちはイラストなどを映像内で加えることによって、どのような自動化された製造プロセスを目指していたのかを明確に示すことができた。



### 3. 今後の展望

Global Fashion Conference 2018 での発表後はサステイナブルファッションの未来をデジタルファブリケーション、ウェアラブルデバイスなどを前提に研究を発展することを目的とする。また、ORF2018年に当研究から得た知識を踏まえて発展した作品を展示する予定である。

### 4. 謝辞

今回の参加にあたり、資金面で援助を与えてくださった慶應義塾大学湘南藤沢学会に厚く御礼申し上げます。